

# 歴史人物誌

このコーナーでは、町にゆかりのある歴史人物とその結び付きなどをシリーズで紹介していきます。執筆者は町史編さん委員の佐藤仁志さん（豊間根・六九）です。

寺子屋（学習塾）は、江戸時代、庶民のための初等教育機関として、武士、僧侶、医者、神職などが師となり、手習い、読み方、そろばんなどを教えた。

荒川村では佐藤武八郎、豊間根村では宝珠院の住職や法印（修験者）の芳賀氏、大沢村では南陽寺の住職、法印の上澤氏

## 江戸期・明治維新期 地域の教育に貢献した人々



【安倍長俊】  
安倍塾で多くの人材を育て、明治6年飯岡小学校（後の山田小学校）初代教師。後に第3代校長となった。

六年（一七九四）に開塾、明治五年の塾主は神職大久保隆、男九十五名、女四十二名在籍。龍昌寺では住職が代々教育にあたった。

飯岡村には五つの塾があった。佐藤塾は文政二年（一八一九）開塾、明治元年の塾主は神職佐藤近江、男五十名、女三十名在籍。大河原塾は文政三年開塾、慶応二年の塾主は僧侶大河原良道、男四十名、女三十二名在籍。和

織笠村には寛政元年（一七八九）開塾の稲川塾があり、明治五年の塾主神職稲川登、男二百五十名、女五十名在籍。龍泉寺住職、東響院法印なども教育にあたった。

船越村の船越には士族伊藤八兵衛塾（明治初期の在籍百名）、医師阿部寿庵塾、海蔵寺住職、威徳院法印などが教育にあたった。田の浜には神職金浜丹後塾、金浜清塾、大槻茂塾、佐々木庄右エ門塾があった。万延元年（一八六〇）開塾の医師加藤良庵塾は明治初期の在籍教男百二十名、女三十名であった。

井内塾も文政三年開塾、明治五年の塾主は法印和井内正己、男五十名、女三十名在籍。内沼塾は文政十年開塾、慶応元年の塾主は法印内沼三五、男六十名、女三十一名在籍。安部塾は文政十一年開塾、明治二年の塾主は神職安部大和、男五十名、女二十八名の在籍であり、四百名を数えた。飯岡村には上級学習塾

として、阿部椿堂塾（詩歌・和歌・書家）、阿部和作塾（数学者、思想家）、安倍長俊塾（医師・教育者・漢詩・和歌）、和井内真晃塾、冠山塾、貫洞卓堂塾（俳人）、横田一郎塾（剣術）、関玄達塾（医師）、松本子光塾（俳人）、大久保直樹塾（神職）、貫洞長栄塾、松本五郎兵衛塾などがあつたと言われる。

## 町長室から

最近、「三位一体の改革」という言葉を目にする機会が多いと思います。現行の国庫補助負担金を見直し、その税源を地方に移譲し地方の政策決定に当たっての自己決定、自己責任の幅を拡大し、自由度を高めて創意工夫に富んだ施策を実施できるようにすることと合わせて地方交付税の在り方を見直すことがその内容です。しかし、平成十六年度の予算編成では、交付税の削減のみが突出して地方の予算編成作業が大混乱しました。全国町村会や全国町村議長会など地方八団体は、急ぎ五月二十五日に「地方財政危機突破総決起大会」を開催したところですが、その後、小泉首相の要請により国庫補助負担金の見直し案を地方六団体が策定して提出。しかし、省庁間での協議が進まないことから、十一月十七日、「地方分権推進総決起大会」を開催し、真の三位一体改革の実現を強く要請しました。

山田町長 沼崎喜一